

第5章 たわみ

■ 基本問題解答 ■

基本問題 5-2

支点反力：

$$H_A = 0, \quad R_A = \frac{q\ell}{2}, \quad R_B = \frac{q\ell}{2}$$

(基本問題 3-2 参照)

曲げモーメント：

$$M_x = \frac{q\ell}{2}x - \frac{q}{2}x^2$$

(基本問題 4-1 参照)

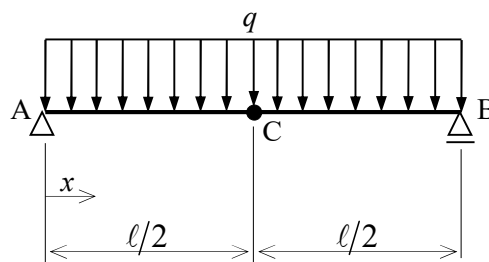


図 5.10 等分布荷重が作用する単純ばり

(1) たわみの微分方程式

たわみの微分方程式は、次式のように得られる。

$$\frac{d^2y}{dx^2} = -\frac{M_x}{EI} = \frac{1}{EI} \left(\frac{q}{2}x^2 - \frac{q\ell}{2}x \right)$$

$$\frac{dy}{dx} = \theta = \frac{1}{EI} \left(\frac{q}{6}x^3 - \frac{q\ell}{4}x^2 \right) + C_1$$

$$y = \frac{1}{EI} \left(\frac{q}{24}x^4 - \frac{q\ell}{12}x^3 \right) + C_1x + C_2$$

(C_1, C_2 : 積分定数)

境界条件は、 $x=0$ の時 $y=0$ 、 $x=\ell$ の時、 $y=0$ よりつぎのように得られる。

$$C_1 = \frac{q\ell^3}{24EI}, \quad C_2 = 0$$

以上より、点 A のたわみ角と点 C(支間中央)のたわみは、それぞれ次式のように求められる。

$$\theta_A = \frac{q\ell^3}{24EI}, \quad y_C = \frac{5q\ell^4}{384EI}$$

(2) 弾性荷重法

図 5.11(a)の曲げモーメント図より，図 5.11(b)に示す弾性荷重と共役ばりを考え，まず，弾性荷重の合力 R を求める。

$$\begin{aligned} R &= \int_0^{\ell} \frac{M_x}{EI} dx = \int_0^{\ell} \left(\frac{q\ell}{2EI}x - \frac{q}{2EI}x^2 \right) dx \\ &= \left[\frac{q\ell}{4EI}x^2 - \frac{q}{6EI}x^3 \right]_0^{\ell} \\ &= \frac{q\ell^3}{12EI} \end{aligned}$$

つぎに，共役ばりの支点反力を求める。

$$\overline{R}_A = \overline{R}_B = \frac{q\ell^3}{24EI}$$

点 A のたわみ角は，同点のせん断力を求めることで得られる。

$$\theta_A = \overline{S}_A = \overline{R}_A = \frac{q\ell^3}{24EI}$$

点 C のたわみ y_C は，同点の曲げモーメントより求めることができる。

$$\begin{aligned} y_C = \overline{M}_C &= \overline{R}_A \cdot \frac{\ell}{2} - \int_0^{\ell/2} \left(\frac{q\ell}{2EI}x - \frac{q}{2EI}x^2 \right) dx \cdot \left(\frac{\ell}{2} - x \right) \\ &= \frac{q\ell^4}{48EI} - \frac{q}{4EI} \left[\frac{\ell^2}{2}x^2 - \ell x^3 + \frac{x^4}{2} \right]_0^{\ell/2} = \frac{5q\ell^4}{384EI} \end{aligned}$$

(3) 仮想仕事の原理(単位荷重法)

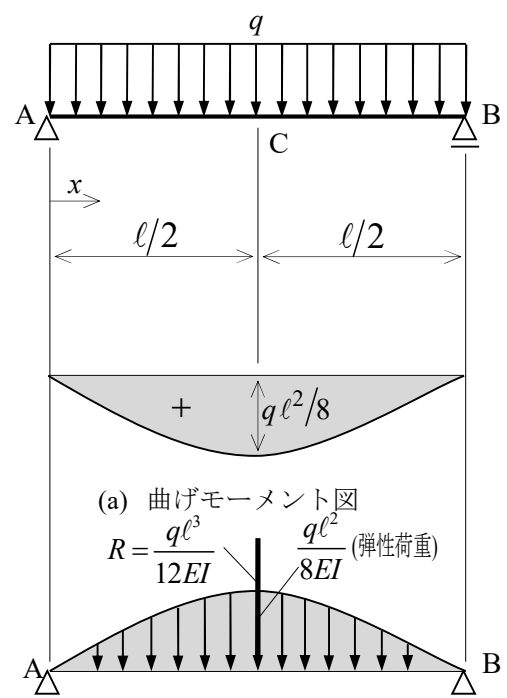
点 C のたわみを求める場合，図 5.12 に示すとおり，点 C に $\overline{P}=1$ を作用させる。

- A-C 間 ($0 \leq x_1 \leq \ell/2$)

$$\overline{M}_{x_1} = \frac{x_1}{2}$$

- B-C 間 ($0 \leq x_2 \leq \ell/2$)

$$\overline{M}_{x_2} = \frac{x_2}{2}$$



(b) 弾性荷重と共役ばり

図 5.11 弾性荷重法

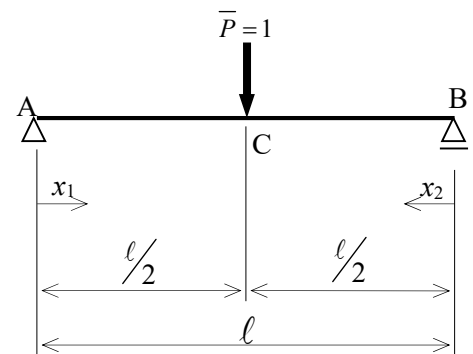


図 5.12 仮想荷重を作用させた単純ばり

曲げモーメントは、点Cに関して左右対称なので、点Cにおけるたわみ y_c は、A-C間の積分値を2倍すればよい。

$$y_c = 2 \int \frac{M\bar{M}}{EI} dx = \frac{2}{EI} \int_0^{\ell/2} \left(\frac{q\ell}{2}x - \frac{q}{2}x^2 \right) \cdot \frac{x}{2} dx$$

$$= \frac{2}{EI} \int_0^{\ell/2} \left(\frac{q\ell}{4}x^2 - \frac{q}{4}x^3 \right) dx = \frac{2}{EI} \left[\frac{q\ell}{12}x^3 - \frac{q}{16}x^4 \right]_0^{\ell/2} = \frac{5q\ell^4}{384EI}$$

点Aのたわみ角を求める場合、図5.13に示すとおり、点Aに $\bar{M}=1$ を作用させる。

$$\bar{M}_x = 1 - \frac{x}{\ell}$$

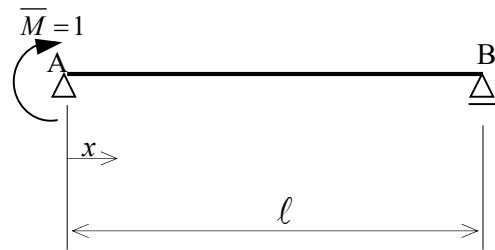


図5.13 仮想モーメントを作用させた単純ばり

$$\theta_A = \int_0^{\ell} \frac{M\bar{M}}{EI} dx = \frac{1}{EI} \int_0^{\ell} \left(\frac{q\ell}{2}x - \frac{q}{2}x^2 \right) \left(1 - \frac{x}{\ell} \right) dx$$

$$= \frac{1}{EI} \left[\frac{q\ell}{4}x^2 - \frac{q}{3}x^3 + \frac{q}{8\ell}x^4 \right]_0^{\ell}$$

$$= \frac{q\ell^3}{24EI}$$

(4) エネルギー法

点Cのたわみを求める場合、図5.14に示すとおり、点Cに仮想の集中荷重である X を作用させ

$$y_c = \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial X} dx$$

を計算する。その後、 $X=0$ とする。

・A-C間 ($0 \leq x \leq \ell/2$)

$$M_x = \frac{q\ell}{2}x - \frac{q}{2}x^2 + \frac{X}{2}x$$

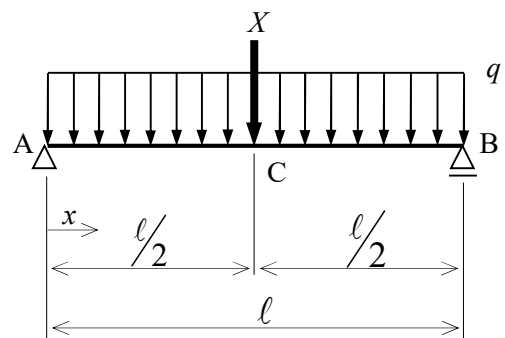


図5.14 点Cに X を作用させた単純ばり

曲げモーメントは、点Cに関して左右対称なので、点Cにおけるたわみ y_c は、A-C間の積分値を2倍すればよい。

$$\begin{aligned}
y_c &= 2 \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial X} dx \\
&= \frac{2}{EI} \int_0^{\ell/2} \left(\frac{q\ell}{2}x - \frac{q}{2}x^2 + \frac{X}{2}x \right) \left(\frac{x}{2} \right) dx = \frac{1}{EI} \int_0^{\ell/2} \left(\frac{q\ell}{2}x^2 - \frac{q}{2}x^3 + \frac{X}{2}x^2 \right) dx \\
&= \frac{1}{EI} \left[\frac{q\ell}{6}x^3 - \frac{q}{8}x^4 + \frac{X}{6}x^3 \right]_0^{\ell/2} = \frac{5q\ell^4}{384EI} + \frac{X\ell^3}{48EI}
\end{aligned}$$

$X=0$ よりつぎのようになる。

$$y_c = \frac{5q\ell^4}{384EI}$$

点 A のたわみを求める場合、図 5.15 に示すとおり、点 A に仮定の曲げモーメント M_A を作用させ

$$\theta_A = \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial M_A} dx$$

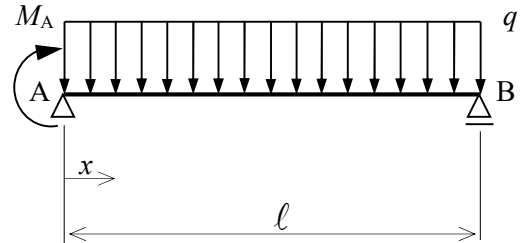


図 5.15 点 A に M_A を作用させた単純ばり

を計算する。その後、 $M_A=0$ とする。

・ A-B 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$M_x = \frac{q\ell}{2}x - \frac{q}{2}x^2 + M_A - \frac{M_A}{\ell}x$$

$$\begin{aligned}
\theta_A &= \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial M_A} dx \\
&= \frac{1}{EI} \int_0^{\ell} \left(\frac{q\ell}{2}x - \frac{q}{2}x^2 + M_A - \frac{M_A}{\ell}x \right) \left(1 - \frac{x}{\ell} \right) dx \\
&= \frac{1}{EI} \left[\frac{q\ell}{4}x^2 - \frac{q}{3}x^3 + M_Ax - \frac{M_A}{\ell}x^2 + \frac{qx^4}{8\ell} + \frac{M_A}{3\ell^2}x^3 \right]_0^{\ell} = \frac{q\ell^3}{24EI} + \frac{M_A\ell}{3EI}
\end{aligned}$$

$M_A=0$ よりつぎのようになる。

$$\theta_A = \frac{q\ell^3}{24EI}$$

基本問題 5-4

支点反力：

$$H_A = 0, R_A = q\ell, M_A = -\frac{q\ell^2}{2}$$

(基本問題 3-12 参照)

曲げモーメント：

B-A 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$M_x = -\frac{q}{2}x^2$$

(基本問題 4-11 参照)

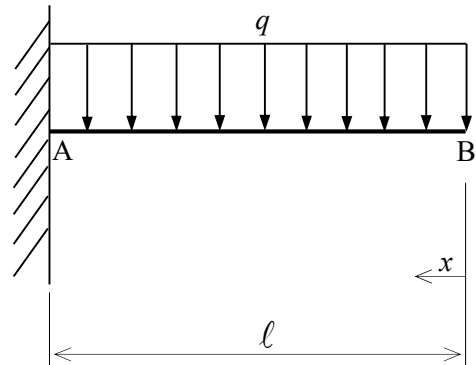


図 5.21 等分布荷重が作用する片持ちばり

(1) たわみの微分方程式

たわみの微分方程式は、次式のように得られる。

$$\frac{d^2y}{dx^2} = -\frac{M_x}{EI} = \frac{q}{2EI}x^2$$

$$\frac{dy}{dx} = \theta = \frac{q}{6EI}x^3 + C_1$$

$$y = \frac{q}{24EI}x^4 + C_1x + C_2$$

(C_1, C_2 : 積分定数)

境界条件は、 $x = \ell$ の時、 $y = 0, \theta = 0$ より

$$C_1 = -\frac{q\ell^3}{6EI}, C_2 = \frac{q\ell^4}{8EI}$$

以上より、点 B のたわみとたわみ角は、以下のとおり求められる。

$$y_B = \frac{q\ell^4}{8EI}, \theta_B = \frac{q\ell^3}{6EI}$$

(2) 仮想仕事の原理(単位荷重法)

点 B のたわみを求める場合、図 5.22 に示すとおり、点 B に $\bar{P} = 1$ を作用させる。

・ B-A 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$\overline{M}_x = -x$$

$$\begin{aligned} y_B &= \int \frac{M\overline{M}}{EI} dx = \int_0^\ell \frac{M_x \overline{M}_x}{EI} dx \\ &= \frac{1}{EI} \int_0^\ell \frac{q}{2} x^3 dx = \left[\frac{qx^4}{8EI} \right]_0^\ell = \frac{q\ell^4}{8EI} \end{aligned}$$

点 B のたわみ角を求める場合、図 5.23 に示すとおり、点 B に $\overline{M} = 1$ を作用させる。

・ B-A 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$\overline{M}_x = -1$$

$$\begin{aligned} \theta_B &= \int \frac{M\overline{M}}{EI} dx = \int_0^\ell \frac{M_x \overline{M}_x}{EI} dx \\ &= \frac{1}{EI} \int_0^\ell \frac{q}{2} x^2 dx = \left[\frac{qx^3}{6EI} \right]_0^\ell = \frac{q\ell^3}{6EI} \end{aligned}$$

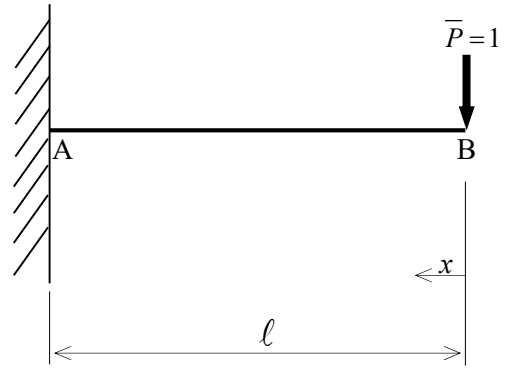


図 5.22 仮想荷重を作用させた片持ちり

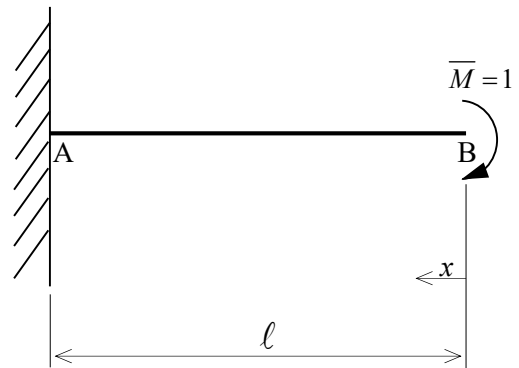


図 5.23 仮想モーメントを作用させた片持ちり

(3) エネルギー法

点 B のたわみを求める場合、図 5.24 に示すとおり、点 B に仮定の集中荷重である X を作用させ

$$y_B = \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial X} dx$$

を計算する。その後、 $X=0$ とする。

曲げモーメント：

・ B-A 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$M_x = -\frac{q}{2}x^2 - Xx$$

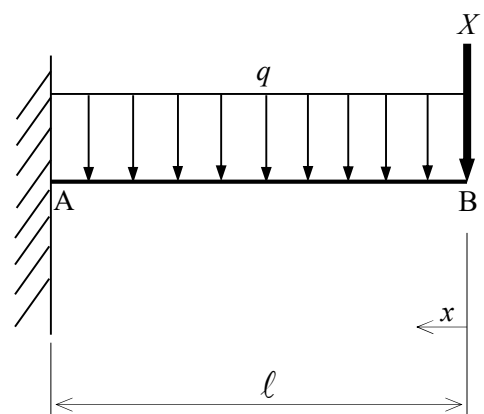


図 5.24 点 B に X を作用させた片持ちり

$$y_B = \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial X} dx = \frac{1}{EI} \int_0^\ell \left(-\frac{q}{2}x^2 - Xx \right) (-x) dx$$

$$= \frac{1}{EI} \left[\frac{q}{8}x^4 + \frac{X}{3}x^3 \right]_0^\ell = \frac{q\ell^4}{8EI} + \frac{X\ell^3}{3EI}$$

$X=0$ よりつぎのようになる。

$$y_B = \frac{q\ell^4}{8EI}$$

点 B のたわみ角を求める場合、図 5.25 に示すとおり、点 B に仮想の曲げモーメント M_B を作用させ

$$\theta_B = \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial M_B} dx$$

を計算する。その後、 $M_B=0$ とする。

・ B-A 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$M_x = -\frac{q}{2}x^2 - M_B$$

$$y_B = \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial M_B} dx = \frac{1}{EI} \int_0^\ell \left(-\frac{q}{2}x^2 - M_B \right) (-1) dx$$

$$= \frac{1}{EI} \left[\frac{q}{6}x^3 + M_B x \right]_0^\ell = \frac{q\ell^3}{6EI} + \frac{M_B \ell}{EI}$$

$M_B=0$ よりつぎのようになる。

$$\theta_B = \frac{q\ell^3}{6EI}$$

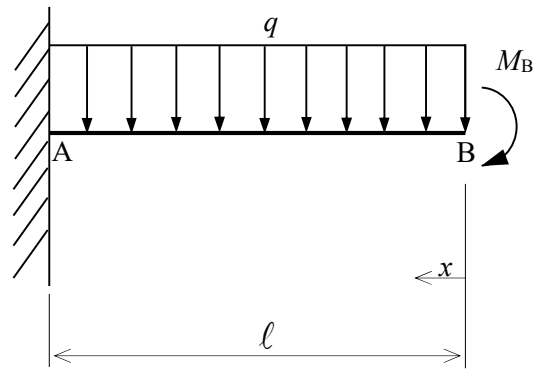


図 5.25 点 B に M_B を作用させた片持ちばり

■ チャレンジ問題解答 ■

チャレンジ問題 5-1

支点反力：

$$H_B = 0, \quad R_B = \frac{q\ell}{2}, \quad M_B = -\frac{q\ell^2}{6}$$

曲げモーメント：

A-B 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$M_x = -\frac{q}{6\ell}x^3$$

(1) たわみの微分方程式

たわみの微分方程式は、次式のように得られる。

$$\frac{d^2y}{dx^2} = -\frac{M_x}{EI} = \frac{q}{6EI\ell}x^3$$

$$\frac{dy}{dx} = \theta = \frac{q}{24EI\ell}x^4 + C_1$$

$$y = \frac{q}{120EI\ell}x^5 + C_1x + C_2$$

(C_1, C_2 : 積分定数)

境界条件は、 $x = \ell$ の時、 $y = 0$ 、 $\theta = 0$ より

$$C_1 = -\frac{q\ell^3}{24EI}, \quad C_2 = \frac{q\ell^4}{30EI}$$

以上より、点 A のたわみとたわみ角は、以下のとおり求められる。

$$y_A = \frac{q\ell^4}{30EI}, \quad \theta_A = -\frac{q\ell^3}{24EI}$$

(2) 仮想仕事の原理(単位荷重法)

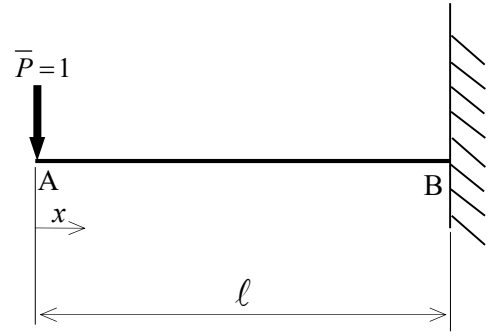
点 A のたわみを求める場合、点 A に、 $\bar{P} = 1$ を作用させる。

・ A-B 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$\overline{M}_x = -x$$

$$y = \int \frac{M\overline{M}}{EI} dx = \int_0^\ell \frac{M_x \overline{M}_x}{EI} dx$$

$$= \frac{1}{EI} \int_0^\ell \frac{q}{6\ell} x^4 dx = \left[\frac{qx^5}{30EI\ell} \right]_0^\ell = \frac{q\ell^4}{30EI}$$



解図 W5.1 仮想荷重を作用させた片持ちばり

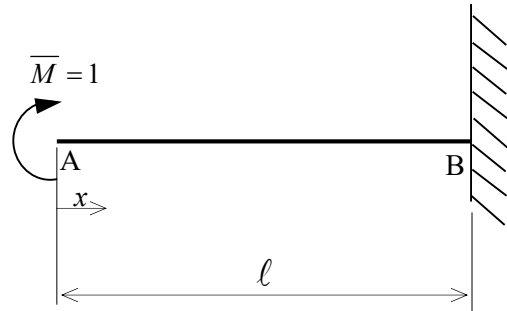
点 A のたわみ角を求める場合、点 A に、 $\overline{M} = 1$ を作用させる。

・ A-B 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$\overline{M}_x = 1$$

$$\theta_B = \int \frac{M\overline{M}}{EI} dx = \int_0^\ell \frac{M_x \overline{M}_x}{EI} dx$$

$$= -\frac{1}{EI} \int_0^\ell \frac{q}{6\ell} x^3 dx = -\left[\frac{qx^4}{24EI\ell} \right]_0^\ell = -\frac{q\ell^3}{24EI}$$



解図 W5.2 仮想モーメントを作用させた片持ちばり

(3) エネルギー法

点 A のたわみを求める場合、点 A に仮想の集中荷重 X を作用させ

$$y_A = \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial X} dx$$

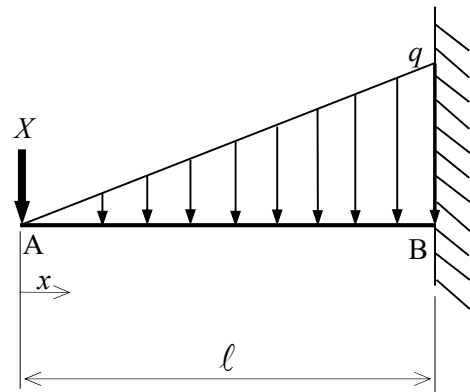
を計算する。その後、 $X=0$ とする。

・ B-A 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$M_x = -\frac{q}{6\ell} x^3 - Xx$$

$$y_A = \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial X} dx = \frac{1}{EI} \int_0^\ell \left(-\frac{q}{6\ell} x^3 - Xx \right) (-x) dx$$

$$= \frac{1}{EI} \left[\frac{q}{30\ell} x^5 + \frac{X}{3} x^3 \right]_0^\ell = \frac{q\ell^4}{30EI} + \frac{X\ell^3}{3EI}$$



解図 W5.3 点 A に X を作用させた片持ちばり

$X=0$ よりつぎのようになる。

$$y_A = \frac{q\ell^4}{30EI}$$

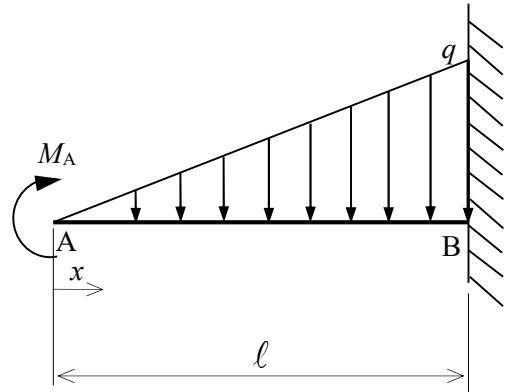
点 A のたわみ角を求める場合、点 A に仮定の曲げモーメント M_A を作用させ、

$$\theta_A = \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial M_A} dx$$

を計算する。その後、 $M_A = 0$ とする。

・ B-A 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$M_x = -\frac{q}{6\ell}x^3 + M_A$$



解図 W5.4 点 A に M_A を作用させた片持ばり

$$\begin{aligned} \theta_A &= \int \frac{M_x}{EI} \cdot \frac{\partial M_x}{\partial M_A} dx = \frac{1}{EI} \int_0^\ell \left(-\frac{q}{6\ell}x^3 + M_A \right) (1) dx \\ &= \frac{1}{EI} \left[-\frac{q}{24\ell}x^4 + M_A x \right]_0^\ell = -\frac{q\ell^3}{24EI} + \frac{M_A \ell}{EI} \end{aligned}$$

$M_A=0$ よりつぎのようになる。

$$\theta_B = -\frac{q\ell^3}{24EI}$$

チャレンジ問題 5-2

支点反力：

$$H_A = 0, \quad R_A = P, \quad R_B = P$$

(1) 弾性荷重法

解図 W5.5(a)の曲げモーメント図より、解図 W5.5(b)に示す弾性荷重と共役ばりを考え、その支点反力を求める。

$$\overline{R_A} = \overline{R_B} = \frac{Pal}{4EI}$$

以上より、点 A のたわみ角は、同点のせん断力を求めることで得られる。

$$\theta_A = \overline{S}_A = \overline{R}_A = \frac{Pal}{4EI}$$

一方、点 C および点 D のたわみは、同点の曲げモーメントを求めることで得られる。

・点 C のたわみ

$$\begin{aligned} y_C = \overline{M}_C &= -\frac{Pa^2}{2EI} \cdot \frac{a}{3} + \overline{R}_A \cdot a \\ &= \frac{Pa^2\ell}{4EI} - \frac{Pa^3}{6EI} \end{aligned}$$

・点 D のたわみ

$$\begin{aligned} y_D = \overline{M}_D &= -\frac{Pa}{4EI} \times \left(\frac{\ell}{2} - a\right)^2 - \frac{Pa^2}{2EI} \left(\frac{\ell}{2} - \frac{2}{3}a\right) + \overline{R}_A \cdot \frac{\ell}{2} \\ &= \frac{Pal^2}{16EI} + \frac{Pa^3}{12EI} \end{aligned}$$

(2) 仮想仕事の原理(単位荷重法)

(点 D のたわみの求め方のみ示す)

実荷重系

・ A-C 間 ($0 \leq x \leq a$)

$$M_x = Px$$

・ C-D 間 ($a \leq x \leq \ell/2$)

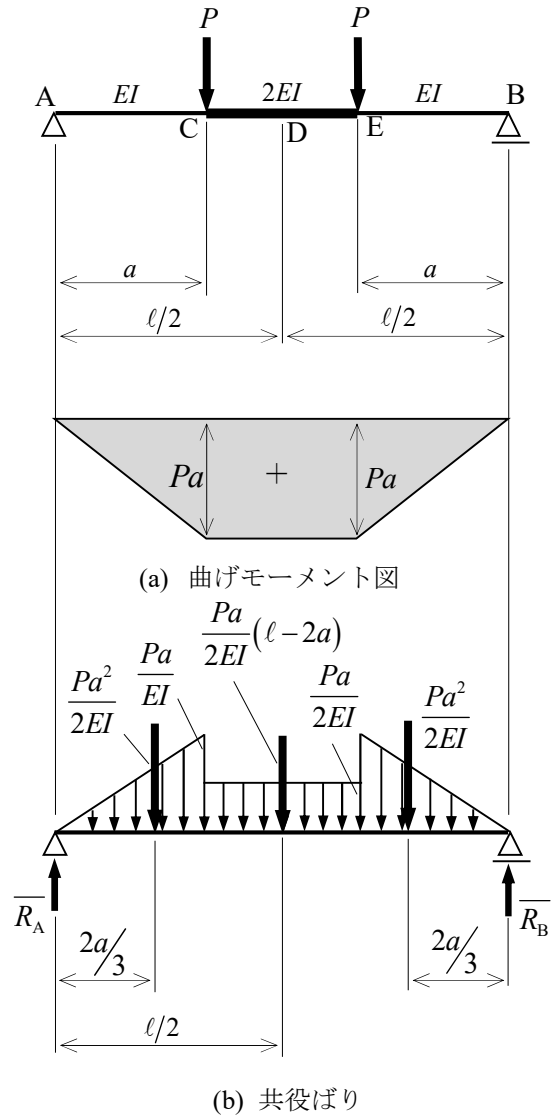
$$M_x = Pa$$

仮想荷重系

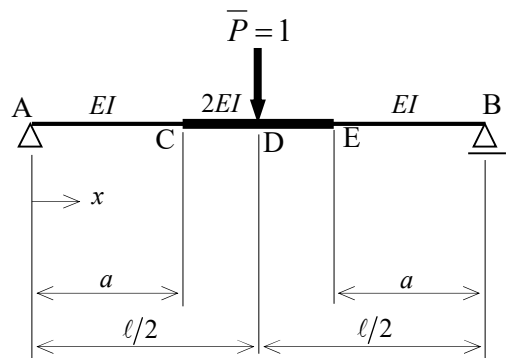
・ A-D 間 ($0 \leq x \leq \ell/2$)

$$\overline{M}_x = \frac{x}{2}$$

曲げモーメントは、点 D に関して左右対称なので、点 D におけるたわみ y_D は、A-D 間の積分値を 2 倍すればよい。



解図 W5.5 変断面の 2 点に集中荷重が作用する単純ばり



解図 W5.6 点 D に仮想荷重を作用させた単純ばり

$$\begin{aligned}
y_D &= \int \frac{M\overline{M}}{EI} dx = 2 \int_0^a \frac{M_x \overline{M}_x}{EI} dx + 2 \int_a^{\ell/2} \frac{M_x \overline{M}_x}{2EI} dx \\
&= \frac{P}{EI} \int_0^a x^2 dx + \frac{Pa}{2EI} \int_a^{\ell/2} x dx = \frac{P}{EI} \left[\frac{x^3}{3} \right]_0^a + \frac{Pa}{2EI} \left[\frac{x^2}{2} \right]_a^{\ell/2} \\
&= \frac{Pa\ell^2}{16EI} + \frac{Pa^3}{12EI}
\end{aligned}$$

チャレンジ問題 5-3

支点反力：

$$R_A = \frac{q\ell}{2}, \quad H_B = 0, \quad R_C = \frac{q\ell}{2}, \quad M_C = -\frac{q\ell^2}{6}$$

点 A-C 間のたわみの微分方程式は、基本問題 5-2 より

$$\frac{d^2 y_1}{dx_1^2} = -\frac{M_{x_1}}{EI} = \frac{1}{EI} \left(\frac{q}{2} x_1^2 - \frac{q\ell}{2} x_1 \right)$$

$$\frac{dy_1}{dx_1} = \theta_1 = \frac{1}{EI} \left(\frac{q}{6} x_1^3 - \frac{q\ell}{4} x_1^2 \right) + C_1$$

$$y_1 = \frac{1}{EI} \left(\frac{q}{24} x_1^4 - \frac{q\ell}{12} x_1^3 \right) + C_1 x_1 + C_2$$

(C_1, C_2 : 積分定数)

と表される。

<境界条件> 支点 A : $x_1 = 0$ の時 $y_1 = 0$ より, $C_2 = 0$

一方, 点 B-C 間のたわみの微分方程式は, 次式で表される。

$$\frac{d^2 y_2}{dx_2^2} = -\frac{M_{x_2}}{EI} = \frac{1}{EI} \left(\frac{q\ell^2}{6} - \frac{q\ell}{2} x_2 \right)$$

$$\frac{dy_2}{dx_2} = \theta_2 = \frac{1}{EI} \left(\frac{q\ell^2}{6} x_2 - \frac{q\ell}{4} x_2^2 \right) + C_3$$

$$y_2 = \frac{1}{EI} \left(\frac{q\ell^2}{12} x_2^2 - \frac{q\ell}{12} x_2^3 \right) + C_3 x_2 + C_4$$

(C_3, C_4 : 積分定数)

<境界条件> 支点 B : $x_2 = 0$ の時 $y_2 = 0$, $\theta_2 = 0$ より, $C_3 = 0$, $C_4 = 0$

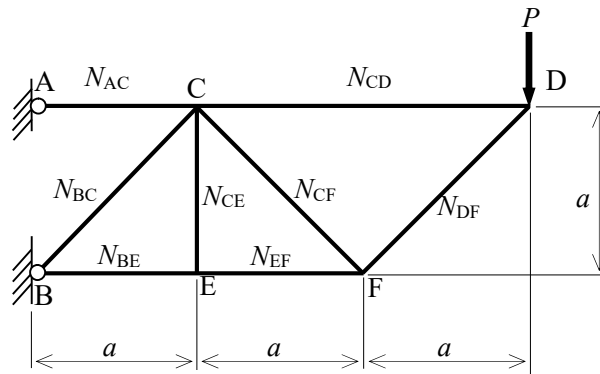
以上より, 点 C のたわみは, x_2 に $l/3$ を代入して, $y_c = \frac{ql^4}{162EI}$ となる。

<連続条件> 中間ヒンジ C において, 点 A-C 間と点 B-C 間のたわみは一致するので, 積分定数 C_1 の値は, 以下の通り求まる。

$$\frac{ql^4}{162EI} = -\frac{ql^4}{24EI} + C_1 \cdot l \text{ より, } C_1 = \frac{31ql^3}{648EI}$$

以上より, 点 A のたわみ角は, $\theta_A = \frac{31ql^3}{648EI}$ となる。

チャレンジ問題 5-4



解図 W5.7 点 D に集中荷重が作用したトラス

点 D に集中荷重 P が作用した際の実荷重系軸力(N)と点 D に仮想荷重($\bar{P}=1$)が作用した際の仮想荷重系軸力(\bar{N})を以下の表にまとめ, 点 D のたわみを求めると, 以下の通りになる。

解表 W5.1 点 D のたわみ計算

	N	\bar{N}	l	$\frac{N\bar{N}}{EA} \cdot l$
AC	$3P$	3	a	$9Pa/EA$
BC	$-\sqrt{2}P$	$-\sqrt{2}$	$\sqrt{2}a$	$2\sqrt{2}Pa/EA$
BE	$-2P$	-2	a	$4Pa/EA$
CD	P	1	$2a$	$2Pa/EA$
CE	0	0	a	0
CF	$\sqrt{2}P$	$\sqrt{2}$	$\sqrt{2}a$	$2\sqrt{2}Pa/EA$
DF	$-\sqrt{2}P$	$-\sqrt{2}$	$\sqrt{2}a$	$2\sqrt{2}Pa/EA$
EF	$-2P$	-2	a	$4Pa/EA$
				$y_D = \frac{(19 + 6\sqrt{2})Pa}{EA}$

チャレンジ問題 5-5

支点反力：

$$H_A = 0, R_A = P, M_A = -P\ell$$

・実荷重系

C-B 間および B-A 間の断面力は、以下のとおりである。

・C-B 間 ($0 \leq x \leq \ell$) $M_x = -Px, N_x = 0$

・B-A 間 ($0 \leq y \leq h$)

$$M_y = -P\ell, N_y = -P$$

・仮想荷重系

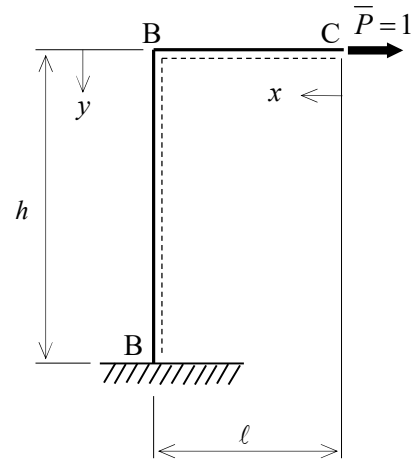
CB 間および BA 間の断面力は、以下のとおりである。

・C-B 間 ($0 \leq x \leq \ell$)

$$\overline{M}_x = 0, \overline{N}_x = 1$$

・B-A 間 ($0 \leq y \leq h$)

$$\overline{M}_y = -y, \overline{N}_y = 0$$



解図 W5.8 点 C に水平の仮想荷重を作用させた折ればり

点 C における水平変位は、次式より求められる。

$$\begin{aligned} y_{Ch} &= \int_0^{\ell} \frac{M\overline{M}}{EI} dx + \int_0^h \frac{M\overline{M}}{EI} dy + \int_0^{\ell} \frac{N\overline{N}}{EA} dx + \int_0^h \frac{N\overline{N}}{EA} dy \\ &= \frac{1}{EI} \int_0^h (-P\ell)(-y) dy = \frac{P\ell}{EI} \left[\frac{y^2}{2} \right]_0^h = \frac{P\ell h^2}{2EI} \end{aligned}$$